

インターネット上に犯行を予告する書き込みは、たとえいたずらであっても、地域の人々や学校、会社の業務などに大きな混乱を与えます。

深  
犯

インターネットの掲示板に、ある地域の小学生に危害を加えるという書き込みが、日時指定でありました。

そのため、学校は、その日は子どもだけで外出しないように呼びかけたり、登下校時に職員が通学路に立って安全を確保しましたが、実際には、事件は起こりませんでした。

ところが、その書き込みを見た小学生が、それをまねて、別の地域の小学生に危害を加えるという書き込みをしました。

さらに、それを見た別の人が、他の小学生に暴行を加えるという書き込みをして、書き込みが広がり、大きな問題となりました。

犯行予告により多くの方が迷惑をこうむった事例

## 【 解説 】

犯行を予告するような書き込みがされると、予告された場所を隅々まで調べたり、警戒要員を増やしたり、通行人を避難させたり、多くの人々に混乱を与えます。犯行予告の書き込み行為は、業務妨害や脅迫などの罪になることがあります。

平成20年6月の秋葉原無差別殺傷事件の後に、児童生徒による犯行予告が急増しました。たとえ、ふざけたり、まねをした結果であっても、犯行予告は多くの人に迷惑をかけることとなります。

(福岡県の女子中学生(13歳)、長野県の男子高校生(16歳)、北海道の男子高校生(17歳)、新潟県の男子中学生(13歳)、福岡県の女子小学生(4年)、静岡県の男子高校生(1年)などが次々と連鎖反応のように犯行予告をしました。)

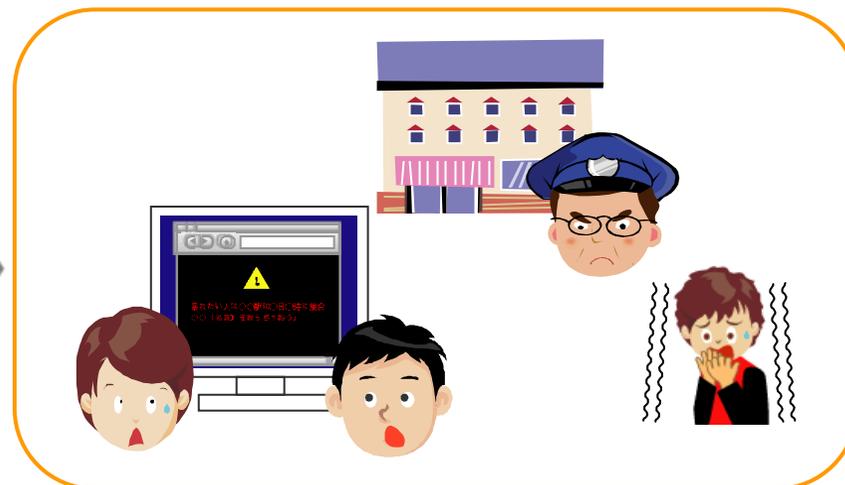
## 気をつけること

1. 軽い気持ちやいたずら心であっても、犯行を予告する書き込みをすると、多くの人に迷惑をかけます。実際にするつもりがなくても、他の人のまねをしただけでも、罪に問われることがあります。
2. インターネット上で発信した情報は、多くの人に瞬時に広まり、一度公開された情報は完全には消すことができません。また、インターネット上の書き込みは、調べれば書き込んだ人を特定することができます。
3. 自分の身近な地域で、犯行を予告するような書き込みを見つけた場合は、保護者や教師など周りの大人に連絡するようにしましょう。
4. 書き込みをする者も大きなストレスを抱えていることがあります。保護者や教師は、日頃から子どもが身近な大人に相談しやすい環境づくりに努めましょう。

「嫌がらせをしよう」などの呼びかけを掲示板に書き込むことは、実際にはするつもりがなくても、相手を傷つけたり、多くの人に迷惑をかけたります。

深

犯



中学2年生（男子）のAくんは、いたずら心からインターネットの掲示板に「暴りたい人は〇〇駅に〇日〇時に集合！ 〇〇（名前）を殴っちゃおう」と書き込みました。

それについて、何件か盛り上げようとする書き込みがされましたが、実際には実行しませんでした。

しかし、その掲示板を見た先生が警察に通報し、警察が犯行防止のために周辺を1日中パトロールしたり、学校でも全校集会で議題に取り上げられたりと、大きな問題に発展してしまいました。

Aくんは、軽い気持ちで書き込んでしまったことをとても後悔しました。

## (7-2) 事例の解説と気をつけること

掲示板へのいたずらの書き込みにより多くの人が迷惑をこうむった事例

### 【 解説 】

実際にするつもりではなくても、安易に掲示板などに人に「危害を加える」といった書き込みをすることは、犯罪となることがあります。

このような書き込みについては、いつ、どこからインターネットに接続したかを調べて、書き込みをした人を特定することが可能です。

また、軽い気持ちやいたずら心で書き込んだことでも、相手を深く傷つけることがあることを理解しましょう。

### 気をつけること

1. 軽い気持ちやいたずら心であっても、人に危害を加えるといった書き込みをすると、相手を深く傷つけます。実際にするつもりがなくても、書き込みをするだけで、罪に問われることがあります。
2. インターネット上で発信した情報は、多くの人に瞬時に広まり、一度公開された情報は完全には消すことができません。また、インターネット上の書き込みは、調べれば書き込んだ人を特定することができます。
3. インターネット上で、人に「危害を加える」といった書き込みを見つけた場合は、すぐに保護者や教師など周りの大人に連絡するようにしましょう。
4. 書き込みをする者も人間関係の不安などを抱えていることがあります。保護者や教師は、日頃からコミュニケーションを密にして、子どもの心の変化を早く察知するよう努めましょう。